



アジェンダ

1	Doctor ECHO Management 通知メール	・ ・ ・	2
2	ライセンスキー Database 通知メール	・ ・ ・	5
3	ライセンスキー Instance 通知メール	・ ・ ・	14

1 Doctor ECHO Management 通知メール

【仕様】

- (1) Doctor ECHO Management 通知メール（ジョブ）は、Doctor ECHO Server の稼動状態 および登録されているライセンスキーの状態をチェックし、警告条件に該当した場合は、警告レポート（通知メール）を送信します。
- (2) ジョブの実行スケジュールは、下記の通りです。
 - 毎日 0 時 0 分
- (3) 通知メールは、下記仕様で送信します。
 - 送信者 : <INSTANCE_NAME>_<DB_UNIQUE_NAME>_<HOST_NAME>@<お客様のドメイン名>
※ Doctor ECHO Server の構築設定情報より取得します。
(例) XE_XE_echosrv@echo-s.co.jp
 - 宛先 : Doctor ECHO ソフトウェアのインストール時に設定した「メールアドレス」
※ CC に弊社のメールアドレス「doctor_echo_support@echo-s.co.jp」が自動設定されます。
※ トライアル使用時は、弊社へのメール送信は行いません。
 - 件名 : 正常時 : Successful – Doctor ECHO Management Job
警告時 : Warning – Doctor ECHO Management Job
 - 本文 : 下記「警告レポート一覧」全ての警告レポートを、一通の通知メールで送信します。
- (4) 警告レポートが無い正常時の場合でも、必ず「Successful」のみの通知メールは送信します。従って、通知メールが送信されてこない場合は、Doctor ECHO Server に何らかの障害が発生し、Doctor ECHO Server が停止している可能性がありますので、Doctor ECHO Server の確認をお願いします。
- (5) 短時間による急激な変化や瞬間的な高負荷等については、検知する事ができない可能性があります。
- (6) Doctor ECHO Database の起動・停止を行うと、その旨の通知メールが送信されます。

【警告レポート一覧】

(1) Check Doctor ECHO Data Files Capacity Report

Doctor ECHO 表領域のデータファイルの空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- Doctor ECHO 表領域のデータファイルを、上記の閾値を上回る領域サイズに拡張して下さい。

(2) Check Doctor ECHO Tablespaces Capacity Report

Doctor ECHO 表領域の空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- Doctor ECHO 表領域を、上記の閾値を上回る領域サイズに拡張して下さい。

(3) Check Doctor ECHO License Key Jobs Status Report

ライセンスキーのジョブのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- ステータス : DISABLE

【対処】

- 理由または原因を確認し、ライセンスキーを ENABLE にして下さい。

(4) Check Doctor ECHO License Keys Status Report

ライセンスキーのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- ステータス : DISABLE

【対処】

- 理由または原因を確認し、ライセンスキーを ENABLE にして下さい。

(5) Check Doctor ECHO License Key Options Status Report

オプション監視機能のステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- ステータス : DISABLE

【対処】

- 理由または原因を確認し、必要であればオプション監視機能を ENABLE にして下さい。

※ ASM または CRS 未使用時に送信される警告メッセージを抑止したい場合は、『Ⅲ ライセンスキー管理 編』の「ライセンスキーセットアップ手順」を参照して下さい。

(6) Check Doctor ECHO License Keys Expiration Date Report

ライセンスキーの有効期限が、下記警告条件の閾値を上回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : 有効期限 - 1か月

【対処】

- 契約の更新を検討して頂き、有効期限までにライセンスキーを更新して下さい。

【 Doctor ECHO Database 起動・停止 通知メール一覧 】

(1) Startup Doctor ECHO Database Report

Doctor ECHO Database が起動されると、通知レポートがメール送信されます。

- 件名 : Successful – Startup Doctor ECHO Database

(2) Shutdown Doctor ECHO Database Report

Doctor ECHO Database が停止されると、通知レポートがメール送信されます。

- 件名 : Successful – Shutdown Doctor ECHO Database

2 ライセンスキー Database 通知メール

【仕様】

- (1) ライセンスキー Database 通知メール（ジョブ）は、Oracle Database Server の Database 稼動状態をチェックし、警告条件に該当した場合は、適切なタイミングおよび頻度で警告レポート（通知メール）を送信します。
- (2) Oracle Database のリリースバージョンやデータベースの構成によって、稼動状態のチェック項目が決まります。
- (3) ライセンスキー Database ジョブの実行スケジュールは、下記の通りです。
 - 毎時 0, 10, 20, 30, 40, 50 分
- (4) ライセンスキー Database 通知メールは、下記の仕様で送信します。
 - 送信者 : <DB_UNIQUE_NAME>_<MSTER_NODE>@<お客様のドメイン名>
※ Oracle Database Server のライセンスキー情報より取得します。
(例) orcl_orclsrv@echo-s.co.jp
 - 宛先 : Doctor ECHO ソフトウェアのインストール時に設定した「メールアドレス」
※ CC に弊社のメールアドレス「doctor_echo_support@echo-s.co.jp」が自動設定されます。
※ トライアル使用時は、弊社へのメール送信は行いません。
 - 件名 : Warning - <下記通知メール一覧のタイトル>
 - 本文 : 下記「通知メール一覧」の警告レポートを、それぞれの通知メール毎に送信します。
尚、警告レポート明細行の上限は、100 件までとしています。
- (5) 警告レポートが無い正常時の場合は、通知メールを送信しません。
- (6) 短時間による急激な変化や瞬間的な高負荷等については、検知する事ができない可能性があります。

【通知メール一覧】

(1) Check Oracle Database Release Version Configuration Change Report

Oracle リリースバージョンの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【対処】

- 理由または原因を確認し、Oracle リリースバージョンの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(2) Check Oracle Database Options Configuration Change Report

Oracle オプションの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【対処】

- 理由または原因を確認し、Oracle オプションの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(3) Check Oracle Database Status & Configuration Change Report

データベースの稼動状態が変更された、または、データベースのログモードが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ログモード : NOARCHIVELOG

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、データベースの稼動状態に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ログモードの場合は、ログモードを ARCHIVELOG に変更する事を検討して下さい。

(4) Check Oracle Database Components Status & Configuration Change Report

データベースコンポーネントの構成が変更された、または、データベースコンポーネントのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ステータス : VALID 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、データベースコンポーネントの構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、データベースコンポーネントをリカバリして下さい。

(5) Check Oracle Database NLS Database Parameters Configuration Change Report

NLS パラメータの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、NLS パラメータの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(6) Check Oracle Database Control File Record Section Configuration Change Report

制御ファイルレコードセクションの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、制御ファイルレコードセクションの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(7) Check Oracle Database Control Files Configuration Change Report

制御ファイルの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、制御ファイルの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(8) Check Oracle Database Log Files Status & Configuration Change Report

オンライン REDO ログファイルの構成が変更された、または、オンライン REDO ログファイルのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ステータス : NULL 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、オンラインREDOログファイルの構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、オンラインREDOログファイルをリカバリして下さい。

(9) Check Oracle Database Data Files Status & Configuration Change Report

データファイルまたはテンプファイルの構成が変更された、または、データファイルまたはテンプファイルのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ステータス : SYSTEM および ONLINE 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、データファイルまたはテンプファイルの構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、データファイルまたはテンプファイルをリカバリして下さい。

(10) Check Oracle Database Tablespaces Status & Configuration Change Report

表領域の構成が変更された、または、表領域のステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ステータス : ONLINE 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、表領域の構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、表領域をリカバリして下さい。

(11) Check Oracle Database Rollback Segments Status & Configuration Change Report

ロールバックセグメントの構成が変更された、または、ロールバックセグメントのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ステータス : ONLINE 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、ロールバックセグメントの構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、ロールバックセグメントをリカバリして下さい。

(12) Check Oracle Database Profiles Configuration Change Report

プロファイルの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、プロファイルの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(13) Check Oracle Database Roles Configuration Change Report

ロールの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、ロールの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(14) Check Oracle Database Users Status & Configuration Change Report

ユーザの構成が変更された、または、ユーザのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- ステータス : OPEN 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、ユーザの構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、ユーザを OPEN にして下さい。

(15) Check Oracle Database Tablespace Quotas Configuration Change Report

表領域の割り当て制限値の構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、表領域の割り当て制限値の構成に問題が無いかを確認して下さい。

(16) Check Oracle Database System Privileges Configuration Change Report

システム権限の構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。但し、下記対象条件に該当するシステム権限のみを対象とします。

【対象条件】

- 権限受領者 : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、システム権限の構成に問題が無いかを確認して下さい。

(17) Check Oracle Database Object Privileges Configuration Change Report

オブジェクト権限の構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。但し、下記対象条件に該当するオブジェクト権限のみを対象とします。

【対象条件】

- 権限受領者 : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、オブジェクト権限の構成に問題が無いかを確認して下さい。

(18) Check Oracle Database Role Privileges Configuration Change Report

ロール権限の構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。但し、下記対象条件に該当するロール権限のみを対象とします。

【対象条件】

- 権限受領者 : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、ロール権限の構成に問題が無いかを確認して下さい。

(19) Check Oracle Database Objects Status & Configuration Change Report

オブジェクトの構成が変更された、または、オブジェクトのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。但し、下記対象条件に該当するオブジェクトのみを対象とします。

【警告条件】

- ステータス : VALID 以外

【対象条件】

- オーナ : SYS および PUBLIC 以外
 - ※ 但し、下記オブジェクトは含みます。
 - ・ ディレクトリ
 - ・ PUBLIC データベースリンク
 - ・ PUBLIC シノニム（オブジェクトオーナーが SYS 以外）

【対処】

- 理由または原因を確認し、オブジェクトの構成に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記ステータスの場合は、オブジェクトをリカバリして下さい。

(20) Check Oracle Database Segments Configuration Change Report

セグメントの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、セグメントの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(21) Check Oracle Database Tables Statistics Report

テーブルの統計情報が未取得である、または、統計情報の行数が 0 件である、または、統計情報の行連鎖または行移行が、下記警告条件の閾値を上回ると、警告レポートがメール送信されます。

但し、下記対象条件に該当するテーブルのみを対象とします。

【 警告条件 】

- 分析日時 : NULL
- 行数 : 0
- 閾値 : 1

【 対象条件 】

- オーナ : SYS 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認して下さい。
- 分析日時が NULL の場合は、テーブルの統計情報を取得して下さい。
- 行数が 0 件の場合は、テーブルの統計情報取得処理が適切なタイミングで行われているかを確認して下さい。
- 閾値を上回っている場合は、テーブルの再構築を検討して下さい。

(22) Check Oracle Database Table Partitions Statistics Report

パーティションテーブルの統計情報が未取得である、または、統計情報の行数が 0 件である、または、統計情報の行連鎖または行移行が、下記警告条件の閾値を上回ると、警告レポートがメール送信されます。

但し、下記対象条件に該当するパーティションテーブルのみを対象とします。

【 警告条件 】

- 分析日時 : NULL
- 行数 : 0
- 閾値 : 1

【 対象条件 】

- オーナ : SYS 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認して下さい。
- 分析日時が NULL の場合は、パーティションテーブルの統計情報を取得して下さい。
- 行数が 0 件の場合は、パーティションテーブルの統計情報取得処理が適切なタイミングで行われているかを確認して下さい。
- 閾値を上回っている場合は、パーティションテーブルの再構築を検討して下さい。

(23) Check Oracle Database Indexes Statistics Report

インデックスの統計情報が未取得である、または、統計情報の行数が 0 件である、または、統計情報のBツリーレベルが、下記警告条件の閾値を上回ると、警告レポートがメール送信されます。

但し、下記対象条件に該当するインデックスのみを対象とします。

【 警告条件 】

- 分析日時 : NULL
- 行数 : 0
- 閾値 : 3

【 対象条件 】

- オーナ : SYS 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認して下さい。
- 分析日時が NULL の場合は、インデックスの統計情報を取得して下さい。
- 行数が 0 件の場合は、インデックスの統計情報取得処理が適切なタイミングで行われているかを確認して下さい。
- 閾値を上回っている場合は、インデックスの再構築を検討して下さい。

(24) Check Oracle Database Index Partitions Statistics Report

パーティションインデックスの統計情報が未取得である、または、統計情報の行数が 0 件である、または、統計情報のBツリーレベルが、下記警告条件の閾値を上回ると、警告レポートがメール送信されます。

但し、下記対象条件に該当するパーティションインデックスのみを対象とします。

【 警告条件 】

- 分析日時 : NULL
- 行数 : 0
- 閾値 : 3

【 対象条件 】

- オーナ : SYS 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認して下さい。
- 分析日時が NULL の場合は、パーティションインデックスの統計情報を取得して下さい。
- 行数が 0 件の場合は、パーティションインデックスの統計情報取得処理が適切なタイミングで行われているかを確認して下さい。
- 閾値を上回っている場合は、パーティションインデックスの再構築を検討して下さい。

(25) Check Oracle Database Indexes Status Report

インデックスの可視属性またはステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。
但し、下記対象条件に該当するインデックスのみを対象とします。

【警告条件】

- 可視属性 : VISIBLE 以外
- ステータス : VALID 以外

【対象条件】

- オーナ : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、インデックスをリカバリして下さい。

(26) Check Oracle Database Index Partitions Status Report

パーティションインデックスのステータスが、下記警告条件に該当すると、警告レポートがメール送信されます。
但し、下記対象条件に該当するパーティションインデックスのみを対象とします。

【警告条件】

- ステータス : VALID 以外

【対象条件】

- オーナ : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、パーティションインデックスをリカバリして下さい。

(27) Check Oracle Database Data Files Capacity Report

データファイル領域の空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、上記の閾値を上回る領域サイズに、データファイル領域を拡張する事を検討して下さい。

(28) Check Oracle Database Tablespaces Capacity Report

表領域の空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、上記の閾値を上回る領域サイズに、表領域を拡張する事を検討して下さい。

(29) Check Oracle Database Tablespace Quotas Capacity Report

表領域の領域割り当て制限値に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、上記の閾値を上回る制限値に、表領域の領域割り当て制限値を増やす事を検討して下さい。

(30) Check Oracle Database Extents Capacity Report

オブジェクトの MAX_EXTENTS に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。
但し、下記対象条件に該当するオブジェクトのみを対象とします。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対象条件】

- オーナ : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- オブジェクトの再構築でエクステント数を減らす事を検討して下さい。
- オブジェクトの再構築が難しい場合は、上記の閾値を上回る値に、MAX_EXTENTS を増やす事を検討して下さい。

(31) Check Oracle Database Next Extent Capacity Report

オブジェクトの NEXT_EXTENT 領域サイズが、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。
但し、下記対象条件に該当するオブジェクトのみを対象とします。

【警告条件】

- 閾値 : 該当表領域の最大空き領域サイズ

【対象条件】

- オーナ : SYS 以外

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- オブジェクトの NEXT_EXTENT 領域サイズを、上記の閾値を下回る領域サイズに縮小する事を検討して下さい。
- 該当表領域の最大空き領域サイズを、オブジェクトの NEXT_EXTENT を上回る領域サイズに拡張する事を検討して下さい。

3 ライセンスキー Instance 通知メール

【仕様】

- (1) ライセンスキー Instance 通知メール（ジョブ）は、Oracle Database Server の Instance 稼動状態をチェックし、警告条件に該当した場合は、適切なタイミングおよび頻度で警告レポート（通知メール）を送信します。
- (2) Oracle Database のリリースバージョンやデータベースの構成によって、稼動状態のチェック項目が決まります。
- (3) ライセンスキー Instance ジョブの実行スケジュールは、下記の通りです。
 - 毎時 0, 10, 20, 30, 40, 50 分
- (4) ライセンスキー Instance 通知メールは、下記の仕様で送信します。
 - 送信者 : <INSTANCE_NAME>_<HOST_NAME>@<お客様のドメイン名>
※ Oracle Database Server のライセンスキー情報より取得します。
(例) orcl_orclsrv@echo-s.co.jp
 - 宛先 : Doctor ECHO ソフトウェアのインストール時に設定した「メールアドレス」
※ CC に弊社のメールアドレス「doctor_echo_support@echo-s.co.jp」が自動設定されます。
※ トライアル使用時は、弊社へのメール送信は行いません。
 - 件名 : Warning - <下記通知メール一覧のタイトル>

※ 但し、「Check Oracle Connection State」については、下記の仕様となります。
 - ・エラー時 : Error - Check Oracle Connection State
 - ・復旧時 : Successful - Check Oracle Connection State
 - 本文 : 下記「通知メール一覧」の警告レポートを、それぞれの通知メール毎に送信します。
尚、警告レポート明細行の上限は、100 件までとしています。
- (5) 警告レポートが無い正常時の場合は、通知メールを送信しません。
- (6) 短時間による急激な変化や瞬間的な高負荷等については、検知する事ができない可能性があります。

【通知メール一覧】

(1) Check Oracle Instance Connections State Report

Oracle Database Server（Instance）との接続状態に、下記警告条件の状態が発生すると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 状態 : 接続エラー
接続エラーからの復旧

【対処】

- 理由または原因を確認し、データベース、リスナー、ネットワーク、等に問題が無いかを確認して下さい。

(2) Check Oracle Listener Log File Report (オプション)

リスナーログファイルに、下記エラー条件のキーワードを検知すると、エラーレポートがメール送信されます。

【エラー条件】

- キーワード : ORA- 、 TNS- 、 OSD- 、
Error 、 error 、 err code 、
Failure 、 failure 、
Failed 、 failed

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- Oracle Database Server の構成 (リソース) に問題が無いかを確認して下さい。

(3) Check Oracle Alert Log File Report (オプション)

アラートログファイルに、下記エラー条件のキーワードを検知すると、エラーレポートがメール送信されます。

【エラー条件】

- キーワード : ORA- 、 TNS- 、 OSD- 、
Error 、 error 、 err code 、
Failure 、 failure 、
Failed 、 failed

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- Oracle Database Server の構成 (リソース) に問題が無いかを確認して下さい。

(4) Check Oracle ASM Alert Log File Report (オプション)

ASM アラートログファイルに、下記エラー条件のキーワードを検知すると、エラーレポートがメール送信されます。

【エラー条件】

- キーワード : ORA- 、 TNS- 、 OSD- 、
Error 、 error 、 err code 、
Failure 、 failure 、
Failed 、 failed

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- Oracle Database Server の構成 (リソース) に問題が無いかを確認して下さい。

(5) Check Oracle CRS Alert Log File Report (オプション)

CRS アラートログファイルに、下記エラー条件のキーワードを検知すると、エラーレポートがメール送信されます。

【エラー条件】

- キーワード : ORA- 、 CRS- 、 TNS- 、 OSD- 、
Error 、 error 、 err code 、
Failure 、 failure 、
Failed 、 failed

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- Oracle Database Server の構成（リソース）に問題が無いかを確認して下さい。

(6) Check Oracle Instance CPU Load Average Report

CPU Load Average が、下記警告条件の閾値を上回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : CPUの個数

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- Oracle Database Server の構成（リソース）に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に高負荷の場合は、CPUの増強を検討して下さい。

(7) Check Oracle Instance CPU Capacity Report

CPU のアイドル率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- Oracle Database Server の構成（リソース）に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に高負荷の場合は、CPUの増強を検討して下さい。

(8) Check Oracle Instance Status & Configuration Change Report

インスタンスの稼動状態が変更された、または、インスタンスの稼動状態が、下記警告条件のいずれかに該当すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- アーカイバ : STARTED 以外
- DB ステータス : ACTIVE 以外
- ステータス : OPEN 以外

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 上記アーカイバの場合は、アーカイバを STARTED に変更する事を検討して下さい。
- 上記 DB ステータスまたはステータスの場合は、その原因を確認し、インスタンスをリカバリして下さい。

(9) Check Oracle Instance NLS Instance Parameters Configuration Change Report

NLS パラメータの構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、NLS パラメータの構成に問題が無いかを確認して下さい。

(10) Check Oracle Instance System Parameters Configuration Change Report

システムパラメータ(初期化パラメータ)の構成が変更されると、警告レポートがメール送信されます。

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、システムパラメータ(初期化パラメータ)の構成に問題が無いかを確認して下さい。

(11) Check Oracle Instance Processes Capacity Report

初期化パラメータの PROCESSES に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- 閾値 : ##

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの PROCESSES を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。

(10) Check Oracle Instance Sessions Capacity Report

初期化パラメータの SESSIONS に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの SESSIONS を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。

(11) Check Oracle Instance Transactions Capacity Report

初期化パラメータの TRANSACTIONS に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの TRANSACTIONS を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。

(12) Check Oracle Instance Open Cursors Capacity Report

初期化パラメータの OPEN_CURSORS に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの OPEN_CURSORS を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。

(13) Check Oracle Instance Dispatchers Capacity Report

初期化パラメータの DISPATCHERS に対するアイドル率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの DISPATCHERS を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。
- 必要であれば、初期化パラメータの MAX_DISPATCHERS も増やす事を検討して下さい。

(14) Check Oracle Instance Shared Servers Capacity Report

初期化パラメータの MAX_SHARED_SERVERS に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの MAX_SHARED_SERVERS を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。
- 必要であれば、初期化パラメータの SHARED_SERVERS も増やす事を検討して下さい。

(15) Check Oracle Instance Undo Capacity Report

アプリケーションで、下記警告条件のエラーが発生すると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- エラー : ORA-01555 スナップショットが古すぎます
ORA-30036 UNDO 表領域でセグメントを拡張できません

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的にエラーが発生する場合は、UNDO 表領域の領域サイズを拡張する事を検討して下さい。
- 必要であれば、初期化パラメータの UNDO_RETENTION も増やす事を検討して下さい。

(16) Check Oracle Instance Recovery File Dest Capacity Report

初期化パラメータの DB_RECOVERY_FILE_DEST_SIZE に対する空き率が、下記警告条件の閾値を下回ると、警告レポートがメール送信されます。

【警告条件】

- 閾値 : ##

【対処】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 定常的に閾値を下回る場合は、初期化パラメータの DB_RECOVERY_FILE_DEST_SIZE を、上記の閾値を上回る値に増やす事を検討して下さい。

(17) Check Oracle Instance Holding Sessions Report

アプリケーションのロックにより、下記警告条件の状態が発生すると、警告レポートがメール送信されます。

【 警告条件 】

- 状態 : ロック待機

【 対処 】

- 理由または原因を確認し、アプリケーション設計またはデータベース設計に問題が無いかを確認して下さい。
- 暫定対処としては、ロックしているアプリケーションを確認し、ロックを解除する事が可能であれば、ロックを解除する操作をして下さい。
- 難しいようであれば、ロックしているアプリケーションを強制終了（ KILL SESSION ）する事を検討して下さい。